

玉一アクアリウムは、神戸市立玉津第一小学校の在校生と卒業生の約20名が活動しています。校区内を流れる明石川水系で魚や水生生物や植物を調査・捕獲して、絶滅危惧種や在来種はリリースし、外来種は駆除をして、その命を無駄にしないようにみんなでおいしく食べたり畑の肥料にしています。

活動を始めた頃の明石川にはブルーギルがとても多く、先輩の中にも明石川で初めて捕った魚がブルーギルだった人が何人もいます。

駆除を続けてブルーギルが減ってくると、今度は今まで卵を食べられていたオオクチバスが急に増えてきたそうです。

そしてオオクチバスの駆除も続け、やっと減ってきたと思ったら今度はアメリカザリガニが大量発生して、特に支流や用水路は先輩たちが「ザリガニ祭り」という程たくさんいたそうで、先輩たちは「エビチリ」ではなく「ザリチリ」を食べるのが楽しみでアメリカザリガニの駆除をしたそうです。

根気よくアメリカザリガニの駆除も続けた結果、オイカワやメダカなどの在来魚やヌマエビがおどろくほど増えて、夏～秋の明石川に入ると踏んでしまいそうになる程たくさんの小魚がざわめくようになりました。

そして、神戸市絶滅危惧Aランクで、とてもレアだったヒラテテナガエビも増えてきました。ヒラテテナガエビは、ふつうのテナガエビに比べて赤黒く、ハサミが平たくて太く見えることからアメリカザリガニに似ています。

3年前は1年間で3匹しか捕れなかったのに昨年は150匹以上も捕れていて、レアなエビがいつでも捕れるエビになりました。

ヒラテテナガエビは温かい地方のエビなので、増えてきたのは温暖化による影響もあるかも知れませんが、アメリカザリガニが減ってくると入れ換わるように増えてきたので、アメリカザリガニを駆除した効果は大きかったと思います。

そんな中、神戸市環境局からアクアリウムに神戸版レッドリスト及びブラックリスト改訂(案)の意見の募集がありました。

改訂(案)を見てみると、ヒラテテナガエビがカワアナゴと共にAランクからBランクに下がっていて、集まったみんなでうれしさを分け合いました。

みんなで話し合っ「Bランクに下がるのは賛成だけど、また減るかも知れないからAランクで残してほしいという意見や、こんなに増えているのでCランクでもかまわないという意見もあります」と神戸市に伝えると「神戸市としてはBランクが妥当だと考えています」「これからもご理解とご協力をよろしくお願いします」とお返事をもらって、とてもうれしかったです。

私たちは、明石川も明石川に生きる生き物たちも大好きです。

私たちは、明石川と共に生きています。

新型コロナウイルス感染症が始まる前までは、私たちが明石川を守っていると思っていました。

しかし、学校が臨時休校になって外出や友達に会うこともできなくなった中でも玉一アクアリウムは明石川への思いで一致団結できました。

また川の活動は少人数なら密をさけられることで、途中からは休校中でも少しなら活動できるようになり、それが楽しみで他のことはがまんできるようになりました。

私たちには明石川があったから困難なコロナ禍も乗り越えられました。

私たちが明石川を守っているのと同じように、明石川も私たちを守ってくれていることがわかりました。これからもずっと明石川と共に生きていきたいです。

